

二次障害防ぐ対応重要

十人十色

17

子どもたちの今

A子さんとの出会いは、高校1年の1学期が終わろうとしていた時でした。

彼女は小中学生の時は行き渋りがあったり、別室登校をしたりがしていました。高校には行きたいという思いが強く、寝る間も惜しんで勉強した結果、合格することができました。しかし、入学後は週1、2日しか通えず、今後どうしたらいいかと、お母さんが相談にいられたのです。

お母さんは「無理に行かなくてもいいけど、卒業はしてほしい」との意向でした。本人と面談すると、過度に緊張する様子で、ボソボソと話し、大半の質問には首を縦横に振って答えます。面談を重ねる中で「同年齢の子が怖い」と思っていることもわかりました。

Aさんは小学校の時から友達関係があまりうまくいかず、

不登校の背景

中学ではいじめを受けたことも。外出すると「同級生と鉢合わせするのでは」との不安にかられ、人の視線に恐怖を感じていました。

こうした点が気になって、医療機関の受診を勧めたところ、Aさんは対人関係を築くのが苦手な「自閉スペクトラム症」と診断され、専門的な療育を受けるようになりました。

高校はAさんの希望で中退し、自宅で休養していましたが、3か月ほどたった時に「通信制

高校に行こうと思う」と話し、自宅でのオンライン学習がメイソンの通信制高校に入学。同い年の人とは1年遅れではありましたが、無事に卒業することができました。

その間、お母さんと一緒にないと外出できなかった彼女が一人で面談に来て、本屋さんやコンビニになら買い物にも出られるようになりました。体調を崩して入院したお母さんの代わりに、自宅で食事の支度を担うなど、前向きな気持ちを取り戻していきました。

現在は就職に向けて訓練を受ける、就労移行支援事業所に通っています。最初は週2日、午後だけの利用でしたが、少しずつ時間を増やし、他の利用者ともコミュニケーションがとれるようになっていきました。

お子さんの様子に何か気になることがあった場合、家族だけで悩まず、専門家の協力を得て、現状やその原因を少しでも早く正確に把握し、適切な対応をしていくことが重要です。その子にとってより良い環境を整えてあげることにつながるからです。

(発達支援塾アットスクール 代表 鈴木正樹)



保護者の相談にのる鈴木さん（左、草津市で）